

「のとファンを増やそう」プロジェクト

沖野 栞 (人間社会学域 地域創造学類 4年), 古川 耕太郎 (融合学域 先導学類 2年)

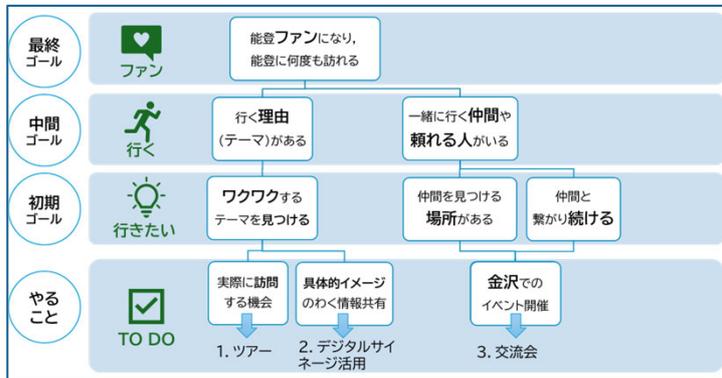
担当教員: 篠田 隆行 (先端科学・社会共創推進機構・学長補佐 (地域共創担当)), 坂本 貴啓 (人間社会学域地域創造学系 講師)

概要

「能登といえば被災地」

でも...能登には魅力がたくさんある! 「能登が好きだから」「能登のファンだから」能登に行きたい! という人を増やしたい!
⇒珠洲市を中心に能登の魅力を発見するツアーを開催。魅力をたくさん見つけてもらいました!

背景・目標



①スタディーツアーの開催



背景 大学1・2年生は、能登半島地震(2024.01)以降金沢大学に入学「能登=震災」ではなく、能登の魅力を知ってほしい
今回は、能登に関わる内発的動機を見つけるきっかけとして、能登を訪れる機会をつくりたい

目的・実施目的 ▶ ワクワクするテーマを見つけるきっかけをつくる
目標 (主催者の) 目標 ▶ 参加者が能登でワクワクすることを見つけられる (参加者の) 目標 ▶ 能登の好きなところを見つける

②デジタルツールの活用

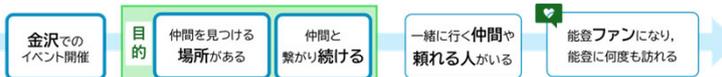


背景 能登地域で研究などを行っている学生や先生はいるが、誰がどこで何をしているのか、全体像を把握できている人は多くない

具体的に金沢大学の活動を知ることで、自分自身と重ね合わせて考え、自分なりの興味を探ることができるのではないかと、また、研究をしている方も、同じフィールドで何が行われているかを把握することで、良い化学反応が生まれる可能性があるのではないかと

目的・設置目的 ▶ 能登での活動の具体的なイメージをわかせる
目標 ▶ 1. 活動している人に情報共有をしていただく
▶ 2. 能登での活動に興味のある人に利用してもらう

③金沢での交流会の開催



背景 能登で活動する学生や先生方の交流の機会

(主催者の) 目標 ▶ 能登というテーマで学生同士がつながる場にする
(参加者の) 目標 ▶ 何か一つ以上発見をし、何かアクションにつなげる

取組結果

スタディーツアー・交流会の開催

参加者: 宇都宮大学6名
琉球大学2名
金沢大学2名

12月12日(金)

◆金沢大学内見学

◆活動交流会

宇都宮大学Cheers、金沢大学の学生の能登での活動について共有しました。さらに、普段の活動の課題について、一緒に考えました。

◆夕食交流会

12月13日(土)

◆珠洲塩田村

揚げ浜式の塩田、塩づくりについて、金沢大学の学生が紹介しました。また、職人さんに、釜を見せていただき、塩の味見もしました。

◆昼食

珠洲のレストランでとてもおいしい昼食をいただきました。

◆スズレコードセンター

地域の方から寄せられた珠洲の写真に、様々なコメントが書かれた付箋が貼ってありました。かつての珠洲の思い出に少し触れることができました。

◆見附島

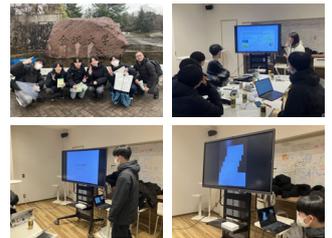
震災によって崩れてしまった見附島を見学しました。また、建築家の坂氏の設計による仮設住宅を見ました。建築を専攻している先生・学生が建築方法のDITなどを紹介しました。

◆禄剛崎灯台

夕日が沈む様子を見るため、能登半島の最先端である禄剛崎灯台を訪問しました。しかし、季節の関係か、うまく日の入りを見ることができませんでした。

◆解散

2日間の振り返りを行い、解散しました。



振り返り、今後に向けて

①スタディーツアーの開催 ③金沢での交流会の開催

他大学の方と、珠洲の魅力を感じるツアーを開催できました。皆さん、研究や「復興」について日々考えていた人でしたが、純粋に「良いところ」「好きなところ」をたくさん見つけてもらえました。しかし、もともとは、金沢大学の学生にも同じ石川県の能登地域の魅力を知り、「のとファン」になるきっかけにしてほしかったのですが、今回は2名の参加だったので当初の目的・目標はあまりかなえられませんでした。今後の課題にしたいです。

②デジタルツールの活用

デジタルツールの活用は、できませんでした。金沢にいる人たちをつなぐ目的でデジタルツールを活用しようと考えていましたが、今後は、能登を好きになった人の周遊を促す方向でも考えていきたいです。